



2015年(平成27年)7月11日

第67号

発行

一般社団法人
尼崎市手をつなぐ育成会

尼崎市西難波町2-3-10

TEL (06) 6419-3897

FAX (06) 6419-3899

E-mail: ikuseikai.ama@y3.dion.ne.jp

http://www.ikuseikai-ama.com/

『一人ひとりに配慮のある暮らし』

一般社団法人尼崎市手をつなぐ育成会
会長 井上 三枝子

当会の上部団体全国手をつなぐ育成会連合会では、障害者差別解消法での合理的配慮の具体例を検討するため「知的障害のある人の合理的配慮検討協議会」を設置し、教育の場、医療機関を利用する時、選挙等に参加など項目別に配慮の内容をまとめ、また知的障害の人達への情報提供の方法として「わかりやすい情報提供のガイドライン」を作成しましたので今日お配りさせて頂きました。すでに実施されているところがあるかもしれませんが、これから検討していくときには参考にさせていただければと思います。そして、合理的配慮を通じて知的障害という障害の分かりづらさ、見えにくさに気づききっかけになり本人達の困ったことが自信や楽しさになり笑顔が増える事を願っています。

続いて、兵庫県手をつなぐ育成会が現在取り組んでいる活動についてご報告いたします。障害者基礎年金申請手続きにおいて、記載内容の不備や日常生活能力の評価により、不支給または受給等級が低く認定され、また再判定時に等級が下がる事例が見受けられます。全国的に見ても兵庫県は申請をしても受給できない率が高いという調査結果が出ています。これらの状況を受け、現在県下で障害者基礎年金の状況調査を行っております。アンケート結果を基に今後の活動に活かしていきたいと思っております。

最後に当会では昭和46年から教育機関の皆様方のご理解とご協力を得て、学校での鉛筆販売を続けておりましたが、昨年度より各学校が販売元へ直接注文しご購入頂いております。昨年度は初めての試みでしたが市内49校の幼稚園・小学校・中学校のご協力がありました。改めてお礼申し上げ引き続きご協力頂きますようお願い申し上げます。

(2015年5月22日 決算総会挨拶より抜粋)

合理的配慮の一例

- *医療
 - ・受診前 ⇒ 診療の手順を図式化
 - ・受付時間 ⇒ 時間をずらす、一般時間外でも対応
 - ・待つ場所 ⇒ 別室を設ける、時間が来たら携帯に連絡
- *教育
 - ・運動会など ⇒ 音に敏感な人が多いのでピストルや笛の代わりに旗を使用
 - ・視覚的教材の使用 ⇒ 写真、絵、タブレットなど個々に応じて対応
- *選挙
 - ・候補者からのわかりやすい演説
 - ・投票手順を説明するためのボード
 - ・わかりやすい投票用紙の様式 ⇒ ○、×での記入



一人ひとりを大切にする特別支援教育



尼崎市教育委員会 学校教育部
教育相談・特別支援担当
課長 小寺 英樹

平素は、特別支援教育の推進にご理解・ご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

本市特別支援教育担当は、教育委員会の組織改変に伴い、平成27年度、教育相談・特別支援担当となり、教育総合センターの2階に事務所を移しました。

尼崎市障害者計画（第3期）の理念であります、「誰もがその人らしく、自立して安心して暮らすことができる共生社会の実現」に向け、教育が担う役割の重要性を認識しながら、幼児児童生徒（以下、児童等）が将来、生き生きと充実した生活が送れるよう、学校園と連携しながら、一人ひとりを大切にした特別支援教育に取り組んでおります。

学校園におきましては、インクルーシブ教育の充実に向け、特別支援教育コーディネーターを中心に、障害のある児童等と障害のない児童等の共同及び交流学习を実施すると共に、個々のニーズに応じ、様々な工夫をしながら指導・支援を行っております。教育委員会といたしましても、特別支援学校等による巡回相談、就学に関する相談、生活介助員・教育支援員の配置、特別支援ボランティアの有償化など、今後も総合的に学校園への指導・支援の充実を図ってまいります。

ここからは、少し個人的なことになりますが、私自身、以前は特別支援学校で勤務しておりました。生活面において全面的に介助が必要で、わずかに動かせる手足を最大限活用し、パソコン操作を一生懸命行うなどしてコミュニケーションを図るお子さんと関わっていました。その中で、本人からはもちろん、保護者の方からも様々なことを学ばせていただき、今の自分があると感じています。そして、子供の成長を支えるのは、学校と家庭の役割がありながらも、連携を密にし、少しの成長を共に喜び合える関係を築いていくことが重要であることを実感してきました。

子供たちに笑顔あふれる毎日を過ごさせるためには、われわれ大人の役割が重要です。

障害のある子もない子が優しい気持ちがあふれるような学校や社会になることを願って、関係機関と連携を図りながら、今後も、特別支援教育の推進に努めてまいります。





民生委員さんはどんなお仕事をしているのかな？

困った時や災害時に地域の民生委員さんは身近な存在ですが、今まで民生委員さんの活動やどの方が居住地の担当委員さんかを知る機会があまりありませんでした。

そこで 26年度の第2回目の地区懇談会では民生委員さんとの交流を行いました。参加した会員からは民生委員さんとの距離が縮まった、活動が良く分かったとの声も届いています。また民生委員さんからは、障害のある人の生活が分かったという感想もいただきました。

これからもこのような機会を作っていきたいと思っています。

☆民生児童委員の主な活動

- ・高齢者への友愛訪問 ⇒ 担当区域内の高齢者（単身・老老世帯）への声掛けや見守り。
- ・関係機関との連携 ⇒ 担当区域内における要援護者について、必要に応じて関係機関につなげる。
- ・その他、児童虐待防止啓発や生活保護に関する活動等。

☆守秘義務

民生委員法第15条に基づき守秘義務が課せられる。

*各地区の民生児童委員数(平成27年4月1日現在)

	定数	現員数		
		区域	主任	
本庁	131	129	125	4
小田	147	143	139	4
大庄	123	118	114	4
立花	174	174	170	4
武庫	139	132	128	4
園田	143	137	133	4
全市	857	833	809	24

*各地区の地域福祉連絡先

	場所	☎	受付時間
中央地域福祉担当	各支所	6413-5381	月～金 9:00～ 17:30
小田地域福祉担当		6488-5445	
大庄地域福祉担当		6419-2941	
立花地域福祉担当		6427-7778	
武庫地域福祉担当		6432-5400	
園田地域福祉担当		6492-1182	



平成27年2月12日

たつの市「ぴーす&ピース」をお招きして 中央公民館にて

AプロジェクトチームIでは知的障害・自閉症についての啓発について、どんな方法があるのか試行錯誤を重ねていました。今回、Aプロ全体会にたつの市で地域の人達と共に啓発活動を行っている「ぴーす&ピース」をお招きし実際に行っている活動を発表していただきました。

プログラムは、子育ての話に始まり知的障害・自閉症の特性の分かりづらさや生活のしづらさなど疑似体験を行います。一般の方にも分かりやすい内容で、近い将来尼崎バージョンをつくり、地域への啓発に活用して行きたいと思います。

活動内容

* 実例 ～わが子の場合～

- ・障害をもつ子どもの誕生から現在までのエピソードを聞きながら、親の思いを感じました。

* 知的障害疑似体験

- ・私たちが普段何気なく使っている言葉「ちゃんとしなさい」「ちょっと待ってて」がいかに抽象的で分かりにくい、に気付くセッション。絵で表すのが難しい言葉は伝わりにくい、ということ学びました。
- ・軍手を2枚重ねて折鶴を作る、という活動を通じ、手先が思うように動かない人のもどかしい気持ちや、焦らされる時の悔しさを知ることができました。など



平成26年12月13日

「生きづらさを抱える子ども達の理解と支援」

講師：プール学院大学 教育学部 松久 眞実 氏

発達障害をもつ子ども達を長年指導してこられた松久眞実先生による講演会を、総合文化センターにて開催しました。先生の体験談をもとに、実際に私たちが見えづらさ、わかりにくさを絵を使って体験するなど、子ども達の困難を知ることができました。

彼らの特性を知ったうえで、①どのような言葉かけが有効なのか、②自尊心を大切に二次障害を防ぐことの重要性、③理解と支援があれば『個性』になる、など関わり方のコツを具体的に提示していただきながら、親である私たちが彼らの環境を整えることが、とても大切であることをあらためて学びました。豊かな人生を送ってほしい、そんな親の思いに寄り添ってくださる先生の講演会でした。



講演中の松久先生



老婆？少女？
どちらに見えますか？



一見幾何学模様に見えますが上下に線をひくとLIFEの文字が。

※これら是指差しをしたり、ガイドラインを引くことで非常にわかりやすくなると実感しました。



平成26年10月1日

「尼崎の歴史と養蜂の取り組み」

講師：尼崎鉄工団地協同組合 理事長 西村 善明 氏



尼崎でとれた
はちみつ「尼みつ」です！

「尼崎再発見！」の第3弾として、ボランティア団体（幸せを分つ会）の西村善明氏をお招きして講演会を開催しました。

尼崎市の「21世紀の森構想」に賛同し尼崎鉄工団地のすきまに緑を植えていく「すきま緑化」への取り組みや、銀座3丁目ビルでの養蜂を視察し、尼崎もミツバチの住む工場づくりへと変わったお話や、尼崎の歴史についてお聞きしました。今回の話を聞いて尼崎のイメージがだいぶ変わったのではないのでしょうか？

鉄工団地でとれた蜂蜜は、“尼みつ”とネーミングして販売されています。試食しましたが、添加物の一切入ってない“尼みつ”は濃厚で、とても美味しかったです。





平成27年1月14日

「障がいのある人が自立した生活を送るために必要な金銭管理について」

講師：社会福祉法人 大阪府障害者福祉事業団 鹿野 佐代子 氏

尼崎市総合文化センターにおいて、講師に社会福祉法人大阪府障害者福祉事業団に勤務し、ファイナンシャルプランナーの資格を持っている鹿野佐代子氏をお招きして講演会を行いました。

今回は県育成会の権利擁護部会との共催という初めての試みでしたが、阪神地区を中心に約100名が参加し会場いっぱいになりました。

私(親)に「もしも」のことがあったら障害のある子どもの生活は？ どれだけお金を残せば良いのか？ など漠然とした不安を抱えている方は多いのではないのでしょうか。今回、生活費が心配ならたとえば親が加入している「生命保険」の受取人に、また「遺言書」を規定通り正しく作成するなど具体例を交えて教えていただき少し安心しました。将来にむけて収入と支出を計算しどれだけの収入があれば生活できるのかを確認し、心配しすぎずに今の生活を楽しむことが重要だと感じました。

また、「金銭教育」については、特別支援学校などで本人たちに行っている金銭を意識付けする工夫を教えてくださいました。収入を袋わけにすることやお札一枚では分かりにくいお金の価値も身近な硬貨にするとわかりやすく少しの工夫で本人達にも理解できることが増えるのではと思いました。

鹿野様から「何度も経験を積むことで成長できる」「親は見守る姿勢で接し、時には失敗させる経験も必要」という言葉が印象に残っています。

お札一枚と硬貨が同じ価値



収入から小遣い、光熱水費、食費、交通費、家賃、貯金 → 袋分け



お小遣いを全て硬貨にし袋に入れる → 使ったら中の硬貨が減っていく



平成27年1月22日

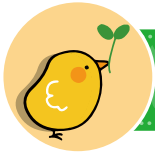
幼児期・学齢期 研修会

尼崎市立あこや学園にて

自閉症 e サービス代表、中山清司先生を講師にお招きし、「自閉症支援の今、これから」というテーマで講演会を行いました。

先生が勉強をされたノースカロライナ州での「TEACCH」による支援体制や、先生ご自身が抱えておられるケースをビデオで拝見しました。子どもの小さい頃からできないことを適宜手伝い、やる気を引き出すことによって、子どもたちの心の安定を大切にしていくことを学びました。それが成人期以降の「穏やかな人格」に繋がっていくそうです。いつも心に留めておきたいものです。とても興味深い講演会でした。





平成27年3月21日 親子バスツアー「イチゴ狩り&神戸市立フルーツフラワーパーク」

成年期と幼児・学齢期の合同で、春のバスツアー「イチゴ狩り」を開催しました。親子・ヘルパー総勢87名で2台の大型バスに分乗。三田市「匠のいちご」に着いたのはお昼前。おなかですいていたこともあり新鮮なとれたてイチゴは、あっという間におなかの中へ…。イチゴ狩り初体験の皆さんもいて、お母さんと上手にハサミを使って春の味覚を楽しんでいました。イチゴ園のあとは、神戸市立フルーツフラワーパークへ移動して各自お昼ごはん。遊園地や買い物を楽しんで、午後3時には帰路につきました。イチゴ狩りが気に入ったと感想を述べてくれたお母さんは、来年も行きたいとのこと。次回もいろいろ希望を募って、楽しいバスツアーにしたいと思います。



甘いいちごをたくさんいただきました。



学齢期



成年期

フルーツフラワーパークで全員集合！



平成26年11月27日 兵庫県 広域防災センター 見学

兵庫県では、阪神・淡路大震災を教訓に、広域防災拠点を県下各地に整備し、救助物資等の備蓄や応急活動要員の集結・出動と県内外からの救援物資の集積・移送の拠点にすることをしています。兵庫県広域防災センターは、これら広域防災拠点ネットワークの中核として、設置されました。防災に対する備えの話や東日本大震災の津波の映像を見たあと、地震と煙避難体験をしました。災害が起きた時、まずは自分の身を守り、そして、あわてず落ち着いて行動しなければと改めて感じました。

見学したことで、防災に対する意識が高まったのではないかと思います。



地震体験の様子



兵庫県広域防災拠点ネットワーク



平成26年12月11日 積水ハウス(株)の納得工房 見学

積水ハウスでは、全国に広がるネットワークを活かし、土地有効活用と安定経営をサポートし、グループホーム等の建設・改修では、障害のある人が使いやすい工夫を各所に施し、自立を支援されています。

今回は、京都府木津川市にある体験と納得をコンセプトにした「開かれた体験型研究所」納得工房（総合住宅研究所）へ行ってきました。一日では、すべてを見ることができないくらいの広大な施設で、私たちは“生涯住宅ゾーン”“性能・構造ゾーン”の一部の見学をし、遮音性の違いや遮熱・断熱の違いなどを体験しました。細かいところまで配慮された技術や性能に、これからの施設整備への夢が広がった気がしました。



平成26年度、尼崎市に次のような要望書を提出しました。

要 望 書

- 1. 尼崎市内に地域生活支援拠点整備型施設の建設
*高齢化、医療ケアに対応し、ショートステイや相談支援を併設した施設
- 1. 幼児期から成人期にわたる生涯サポート体制の確立
 - ・保育所等訪問支援の充実
 - ・相談支援事業の充実
- 1. 知的障害児に対する教育効果が高まるような方策を
 - ・特別支援学級にタブレット端末の導入
 - ・特別支援教育コーディネーターの活用
- 1. 尼崎市成年後見等支援センターの活用
- 1. 公共機関に特例子会社のような部署を設置
- 1. 災害時における知的障害児・者への適切な対応
- 1. 入所施設利用者が一時帰宅中に移動支援の利用を可能に
- 1. 選挙における知的障害者への合理的配慮



平成27年3月24日 花みどりバス旅行

兵庫県の事業で淡路島の花博にかがやきのみんなで行きました。行きバスではビンゴをして楽しみました。着いてからはウエスティンホテルで豪華なランチを頂きました。かがやきの仲間が代表でお礼の挨拶をし、みんなで「しあわせ運べるように」「BELIEVE」を歌ったりしました。その後、奇跡の星の植物館・国営明石海峡公園を見学しました。

バス旅行をみんなで行くのは久しぶりだったのでとても楽しかったです。

参加者を代表して挨拶をしました。



火の鳥のオブジェの前でハイチーズ♡

※賛助会員※

平成26年度 下記の方より賛助金をいただきました。

- 松田 真 様、 宮前 典幸様、 加藤 泰子様、
- 森 康 祐様、 高畑 潤 様、 島 祐 貴様、
- 福満 久晃様、 宮下 哲 様、 大友 昭吾様、
- 梅本 百合子様、 田中 伸治様

ありがとうございました。

平成27年度の理事を紹介します

施設理事



山本(塚口) 相木(清流園) 阿部(まつば)
西中川(かがやき) 蘆田(あいあい) 沢田(杭瀬)

地区理事



左から 山内(あこや) 宮城(小田・園田)
前田(中央・大庄) 高部(立花・武庫)

本部役員



田中 泉 岩永
十河 新本 津



山本副会長 山畑副会長 加藤副理事長
井上会長 井上(恵)常務理事

書記



横山 石井

監事



吉岡 近友 霜倉

§ 編集後記 §

新体制になってから初めての『土と芽』を発行しました。
慣れない作業に右往左往しながらの編集となりましたが、たくさんの記事を掲載することができてホッとしています。今後とも読みやすい紙面を目指していきたいと思いますので
よろしく願いいたします。
(津・岩永)

